

南米宣教 NEWS



受付
20.12.17
たんぽぽ教会

No.146



救い主のご降誕をお祝い申し上げます

《 南米宣教会は 》

JECA 麻溝台キリスト教会
協力牧師 山村英夫



1990年10月から11月にかけての3週間ほど、アメリカ、カナダにある7つの教会を訪問する機会を持ちました。日本へ宣教師を派遣している現地の教会を訪ね、宣教師がどのようにして送り出されて来るのか、そのありようを実感することを目的としていました。1000人を超える大きな教会から、郊外の地域に根差している教会に至るまでいろいろな教会を見ることができました。また、それぞれの教会で何人かの人々にいくつかの質問をしたり、逆に質問を受けるうちに一つの強い印象を持ちました。それは、人々の目が外に向いているということです。皆さんそれぞれに篤い思いをもって語って下さいました。それぞれの教会が目指している思いや方向を語って下さいました。

その中で特に、海外にそして世界に目が向けられている姿に強い印象を持ちました。自分たちの教会が世界に対して何が出来るのかということを熱心に求めている姿は強く心を打つものでした。その中の一つが海外宣教でした。海外に宣教師を派遣する熱心な思いの表れとして、日本に宣教師が派遣されてきているのだという事実をようやく理解できるようになったのです。

なるほどこれが宣教師の源流なのだと、今まで求めていた自分の問いに対する答えが与えられた思いがしました。熱心に宣教師も、それを派遣する教会もみんなの目が外に向いていたのです。その結果、それぞれの教会の活力も出てくるのだと思われました。目を外に向けることの大切さを教えられました。

さて、南米宣教会に目を転じてみます。ブラジルへの熱心な思いをもって中田宣教師が、そして佐藤宣教師が派遣されました。更に、少し時間の経過の後、三浦宣教師、塚田宣教師が派遣されました。しかし、状況の変化とともに、宣教師の引退や導きの変化とともに宣教師の数が減り、現在は派遣している宣教師がいなくなってしまいました。一つの曲がり角を曲がったのかもしれませんが。

それでもマナウスのジョセフィーナ学校の働きに関わるということを通してブラジルでの宣教活動は続けられています。日本の教会が目を外に向けているすばらしい姿を見ることができます。このように、目を外に、つまり世界に向けることが教会の活力につながるのです。目に見える形で活力という結果をすぐに見ることはできないかもしれませんが。それでも目を外に向け続けているならば何かの結果が出てきます。南米宣教会は絶えず世界に目を向けていく姿勢を持ち続けたいものです。



《アマゾナス南米宣教会》

ジョゼフィーナ学校
福祉センター
理事長 三浦洋平



主の御名を賛美します。

新型コロナウイルスによる自粛生活が始まり既に半年以上が経ってしまいました。発生当初はこんなに長くなることを考えてもいませんでした。アマゾナス州では5月、6月が感染のピークを迎え、死者の数が多すぎて、埋葬も一時は合同埋葬となってしまいました。現在も感染は緩やかではありますが、広がり続けています。9月末からマナウスは雨期に入り、『アマゾンの冬』と言われる時期になり、年末に向けての感染拡大が懸念されています。

コロナ感染により世界中が苦しんでいる中、少しでもイエス様の福音を宣べ伝え、希望を失いそうになっている人に、光を与えられればと思っています。その役割をジョゼフィーナ学校や、福祉センターの働きによって行われるようにと願っています。常に主の御心が行われることを願い、求め続けていきたいと思えます。



ジョゼフィーナ学校

マナウス市では3月に新型コロナの感染が発覚、自粛生活がスタートしました。経済活動はスーパーや電気会社などのライフラインを保つ事業以外は一斉に運営停止の法令が発令され、学校も完全なリモート授業を6月まで行うことを余儀なくされました。

7月の中旬から生徒数を制限することを前提に、通常授業とリモート授業のミックス、

こちらでは『ハイブリッド形式』と呼ばれるようになった授業形式が開始されました。

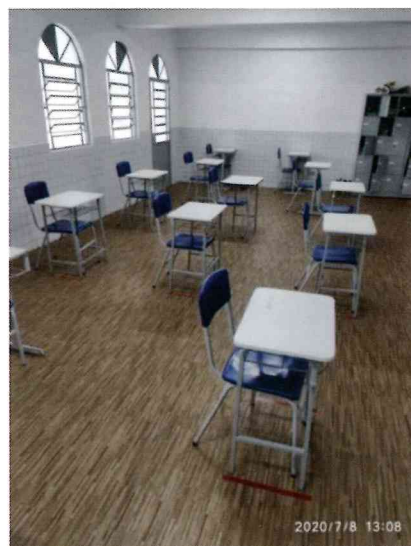
11月現在、来年に向けての準備に追われている毎日です。先生たちも疲弊しており、一日も早くコロナが終息することを心から願っています。



事務 秘書のバーニャさん。仕事はフェイスシールド、マスクを着けて行っています。



対面の授業の時は席を離して行います。





創立 30 周年記念に作った食堂の壁面



社会福祉センター (CAS)

センターは3月下旬から6月まで閉鎖していました。7月上旬にジョゼフィーナ学校と同時期に再開しました。年初の生徒数は190人あまりでしたが、現在は100人ちょっとの生徒数で落ち着いています。

コロナ渦中、センターで受け入れている社会層の生徒たちは経済的に大変なところがたくさんある方たちです。また、公立学校に通う青少年たちはリモートの授業であったり、または学校によっては（特に市立）2020年度は授業再開の予定がなかったりするところもあります。そんな人たちに少しでも勉学を提供できるところが運営し続けていることは感謝なことです。

11月には修了式を行いました。



パンデミックの中の2020年修了式



2020年は誰もが予想していなかった年になり、人間の計画が進まないとき、主の御業と御心を再発見する機会になりました。

その中でも大きな恵みが11月9日にあり、ジョゼフィーナ学校の高校運営の許可が正式に認められました。

既に皆様に祈りの課題としてお伝えしていますが、今年からジョゼフィーナ学校では高校が始まり、州の教育局の認可が下りるのを待っている状態でした。

全ては神様の時があることを信じ、確信し、「喜びなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことに感謝しなさい」を再認識する時となっています。

日本の皆様の祈りがあってこそ、30年もの間、ブラジル南米宣教会、アマゾナス南米宣教会の働きは支えられ、神様の御心が現れるところとなっているのだと思います。



近況



まなみ幼稚園はコロナ禍により、企業の日本人の多くが帰国し（その子女が登園していました）経営が困難な中にあります。閉鎖も検討されましたが、続けるためにマナウス福音ホーリネス教会のボランティアにより、外部へのお弁当販売で支えられています。この事態が乗り越えられるように祈っています。

今年から私の長女なおみ（3）も入園しました。オンラインの時もありますが、登園の時は下の写真のように距離を取り気を付けています。



献金者御芳名（敬称略、順不同）2020年3月～2020年8月

尊いお祈りとご支援を心から感謝いたします。

教会・他＝朝顔（2）、朝顔教会姉妹会、鯉ヶ沢福音キリスト、足立キリスト（3）、生田丘の上キリスト（2）、一宮福音、一麦（7）、大磯キリスト（4）、大野キリスト（6）、川越聖書（2）、三番通福音キリスト、菅キリスト、高松シオン（2）、千歳烏山光の子聖書（2）、筑波キリスト、東京聖書、東洋ローア・キリスト伝道、藤野福音キリスト（3）、本郷台キリスト（6）、前橋キリスト（7）、横浜シオンキリスト

個人＝赤堀 正宣（2）、梶 典之・啓子（6）、鍛冶 留津、越川 壽允・花子、坂本 仁（4）、杉本 謙・明香（2）、水野 知子、森本 剛志

※佐藤浩之宣教師への献金は支援会の方に送金しています。


事務局より


クリスマスを迎える月になりました。変化に耐える1年でしたが、南米宣教を覚えての変わらないご支援、お祈りを感謝します。ジョセフィーナ学校の高校が正式に認められた事は何よりもお祈りによる事と思います。続けて、学校の働き、教職員、生徒、保護者が守られますようにお祈りください。

また、理事として働きに加わって下さる方が与えられますようお祈り下されば幸いです。

ご支援くださる教会、皆様にも神様の豊かなお守りと祝福をお祈り致します。

◇◇ 2020年度 南米宣教会会計報告（2020.4月～2020年.9月） ◇◇

収 入		支 出	
アマゾナス南米宣教会 ジョセフィーナ学校 指定献金	¥680,250	アマゾナス南米宣教会 ジョセフィーナ学校 送金	¥646,238
佐藤宣教師 指定献金	¥22,300	佐藤宣教師 送金	¥21,185
事務局 指定献金	¥198,750	事務用品費	¥3,407
利息分	¥9	交通費	¥0
		通信費	¥18,511
		事務局費	¥69,187
		機関紙代	¥6,805
		JOMA会費	¥60,000
		振替手数料	¥10,371
当年度収入計	¥901,309	当年度支出計	¥835,704
前年度より繰越	¥2,159,261	(当年度収支差額)	(¥65,605)
		次年度へ繰越	¥2,224,866
合 計	¥3,060,570	合 計	¥3,060,570

※今回、ジョセフィーナ学校、宣教師への献金は、2020年3月～8月迄、事務局に関する収支金は、2020年4月～9月迄のご報告になります。

発行日：2020年12月10日 発行人：三浦春壽 振替口座：00160-6-63992
発行所：南米宣教会 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-29-19 Tel. 03-3321-6722